

“地域への愛着”に関連する地域活動の文献検討

佐藤清湖¹, 森田誠子², 中野久美子¹, 大森純子¹

¹東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻 公衆衛生看護学分野

²聖路加国際大学大学院 看護学研究科

Literature Review on “Community Attachment” and its Related Community Activities

Kiyoko SATO¹, Satoko MORITA², Kumiko NAKANO¹ and Junko OMORI¹

¹Public Health Nursing, Division of Health Science, Graduate School of Medical Science, Tohoku University

²St Luke's International University, Graduate School of Nursing Science

Key words : community attachment, community activities, community development, regional symbiotic society

The purpose of this study was to conduct a literature review on “community attachment” and to categorize community activities that may affect the level of “community attachment”. As a result, we found that the number of research is on increase and has been conducted in various area of studies including nursing science, social medicine, education, sports science. Community activities that may affect the level of “community attachment” include activities related to learning activities, sports, culture/art, the elderly, activities related disaster and environmental issues, and community development. Also, categorization of the activities was made according to the nature of activities such as self-improvement-type, community service-type, and problem-solving-type. Since these activities are relevant to the key constructs and effects of “community attachment”, they will facilitate to strengthen the problem-solving capacity against societal issues and to enhance comprehensive community connection to help realize regional symbiotic society.

はじめに

2016年、厚生労働省は「地域共生社会」の実現に向けた改革案を発表した。地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会を目指し、地域共生社会実現本部を設置した。「地域共生社会」の実現に向けた改革の骨子として、地域課題の解決力の強化、地域丸ごとのつながりの強化、地域を基盤とする包括的支援の強化等が

挙げられた。翌年の2017年には、地域包括ケアシステム強化のための介護保険法・社会福祉法の一部改正が行われ、「我が事・丸ごと」の地域福祉推進の理念が規定され、市町村が包括的な支援体制づくりに努める旨が規定された¹⁾。「地域共生社会」の実現に向けた包括的支援体制には、地域力の強化、すなわち「他人事」ではなく「我が事」と考える地域づくりが土台となり、市町村や都道府県が、地域の自主性や主体性に基づき地域特性に応じて地域包括ケアシステムを作り上げていくことが必要とされている²⁾。

“地域への愛着”は、地域における健康づくり活動や町内会活動といった地域活動への人々の主体的な参加を推進することが報告されている^{3,4)}。先行研究では、保健推進員⁵⁾やボランティア活動等^{6,7)}への参加と“地域への愛着”との関連が示されている。“地域への愛着”の構成概念のひとつに人とのつながりを大切に思う思いが挙げられており⁸⁾，“地域への愛着”の形成によって、地域の底力の創出、地域の課題意識の共有、問題解決と振興の促進が期待できる⁹⁾。地域に住み、またその地域に関係を持つ人々が“地域への愛着”を持つことは人とのつながりを大切に思うことであり、「地域共生社会」の実現の一助になり得ると考えられる。さらに、“地域への愛着”を形成することで、地域に存在する課題を人々が認識、共有し、課題解決に向けた取り組みをすすめる、そのための地力を発揮することが期待できる。そこで、国内の“地域への愛着”に関する研究の動向を明らかにし、先行研究の知見から、人々のどのような地域活動への参加が“地域への愛着”と関連しているのかを整理することで、「地域共生社会」の実現に向けた具体策への示唆が得られると考えた。本研究は、国内の“地域への愛着”に関する研究の動向ならびに“地域への愛着”に関連する地域活動について文献検討をすることを目的とした。

研究方法

1. 文献検索方法

医中誌 Web, CiNii のデータベースより、2008年1月から2018年8月の検索期間で、「地域」と「愛着」の両キーワードをタイトルまたは抄録に含む文献を検索した。国内において、1980年代から社会学の分野^{10,11)}で“地域への愛着”に関する研究が報告されている。2000年以降、健康格差の拡大を背景にソーシャル・キャピタルの概念が健康の社会的決定要因の一つとして着目された^{12,13)}ことを契機に、保健医療分野で健康指標と“地域への愛着”との関連が調査されるようになった。よって、本研究では、健康指標と“地域への愛着”に関する学術論文が最初に報告された

2008年¹⁴⁾から10年間を検索期間とした。

2. 文献選択基準及び除外基準

“地域への愛着”に関する日本語の学術論文を対象とした。親子の愛着形成に関する文献、“地域への愛着”を研究の変数やテーマとしていない文献、会議録、考察が含まれない報告等は除外した。

3. 分析方法

1) “地域への愛着”に関する国内の研究動向
対象文献全体を概観し、年次ごと、研究分野ごと、研究内容ごとに文献数を明らかにした。本研究では、「地域活動」を「人々が特定の地域で何らかの目的のために行動をすること」とし、倉沢(2002)の地域活動の分類¹⁵⁾を参考に整理した。また、対象文献の研究分野については、国立研究開発法人・科学技術振興機構¹⁶⁾による研究分野の分類名、細目及びキーワードを参考に分類した。

2) “地域への愛着”に関連する地域活動の検討

“地域への愛着”に関連する地域活動について、以下の手順で明らかにした。

① 対象文献の中から、特定の地域活動と“地域への愛着”の関連を検討している文献を抽出した。② ①で抽出した文献を、地域活動の種類ごとに分類した。③ ②の分類ごとに、地域活動の内容と“地域への愛着”との関連、期待される成果について文献から抽出した内容を整理して記述した。対象文献の抽出と選定、すべての分析過程を通じ、研究者間で繰り返し検討を行い、信頼性と妥当性の確保に努めた。倫理的配慮として、対象となった文献から内容を抽出する際は、文献の論旨や文脈の意味内容を損なわないように努めた。

結果

1. 国内の“地域への愛着”に関する研究の動向

検索の結果、医中誌 Web より110件、CiNii より126件、合計236件の文献が抽出された。抽出された文献より、除外基準をもとに精選した文献76件を対象とした。

“地域への愛着”に関連する地域活動の文献検討

年次ごとの文献数は、2008年から2013年は年間1から7件、2014年から2018年は年間5から13件であった(図1)。研究分野ごとの文献数は、看護学15件、社会医学13件、教育学12件、スポーツ科学10件、環境学7件、土木工学5件、観光学4件、社会福祉学4件、心理学3件、人文地理学1件、建築学1件、情報学1件であった(図2)。研究内容ごとの文献数は、特定の地域活動と“地域への愛着”との関連について検討していた文献59件、物理的環境と“地域への愛着”の関連についての文献8件¹⁷⁻²⁴⁾、“地域への愛着”の概念分析⁹⁾と尺度開発に関する文献6件^{8,25-28)}、その他の文献4件²⁹⁻³²⁾であった(表1)。

対象文献の内、2008年から2013年までの文献が全体の76件中28件、2014年から2018年までの文献数は76件中48件であった。研究分野ごとの特徴として、看護学や社会学分野では、主観的健康観や生活満足度³³⁾、精神的健康等^{29,30)}、健康に関連する指標と“地域への愛着”との関連を検討している文献や高齢者を対象とした文献^{34,35)}があった。教育学、スポーツ科学、観光学の分野では、小・中学生を含む若い世代を対象とする文献^{36,37)}や、対象者が訪れた居住地以外の地域^{38,41)}を愛着形成の対象と捉える文献があった。研究内容ごとの動向として、物理的環境と“地域への愛着”との関連についての研究が土木工学、環境学、

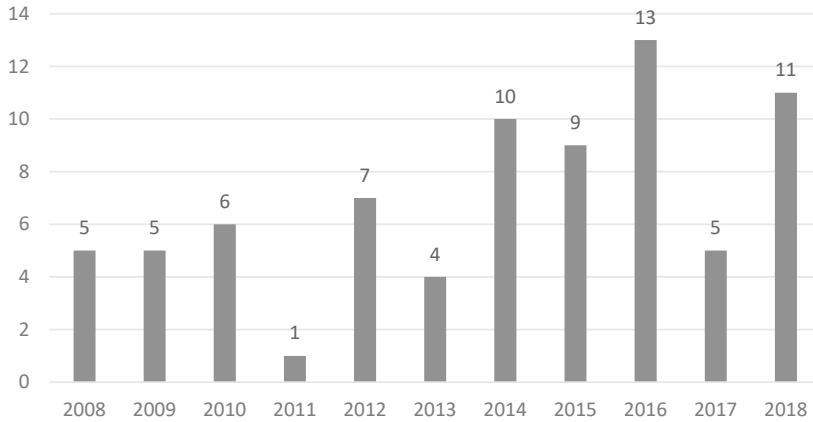


図1. 年次ごとの文献数

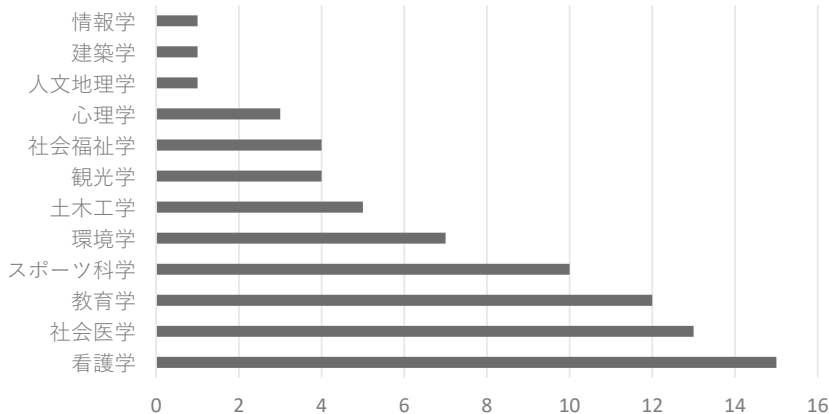


図2. 研究分野ごとの文献数

表1. 国内の“地域への愛着”に関する文献の内容による分類

文献の内容		著者（発行年）
特定の地域活動と地域への愛着との関連を検討していた文献(59)	a) 小・中学生等の学習活動	宮田（2017）、永野ら（2016）、山本ら（2016）、相澤（2017）、宮前（2015）、猪熊（2012）、太町（2012）、加藤（2010,2009）※Yongら（2018）
	b) スポーツに関連した活動	菅ら（2017,2018）、林（2015,2016）、松本ら（2015a,2015b,2015c）、先森ら（2014）、二宮（2010,2011）、松本（2014）※渡辺（2017）、※青柳（2017）、※芦原ら（2014）、※中村ら（2018）
	c) 文化・芸術に関連した活動	森（2016）、小林ら（2015）、本田（2018）、河村ら（2018）※渡辺（2017）、※青柳（2017）、※高橋ら（2018）、※角田（2015）、※芦原ら（2014）、※中村ら（2018）
	d) 観光に関連した活動	谷口（2012）
	e) 自然や環境を守るための活動	船見（2016）、村上（2012）、※渡辺（2017）、※青柳（2017）
	f) 高齢者を対象とした活動	伏木ら（2012）、榊田ら（2009,2010）※渡辺（2017）、※青柳（2017）、※高橋ら（2018）、※角田（2015）、※芦原ら（2014）、※木下（2013）、※Yongら（2018）、※赤塚ら（2016）、※中村ら（2018）、※乾ら（2014）
	g) まちづくりのための活動	亀山（2016）、奥田ら（2016,2018）、安藤（2015）、市川ら（2018）、尾関ら（2009）※渡辺（2017）、※青柳（2017）、※高橋ら（2018）、※吉村ら（2016）、※佐藤（2016）、※角田（2015）、※芦原ら（2014）、※木下（2013）、※Yongら（2018）、※赤塚ら（2016）、※岸田ら（2010）、※乾ら（2014）
	h) 健康や医療に関する活動	中田ら（2013）、埴淵ら（2008）、※渡辺（2017）、※青柳（2017）
	i) 災害に関係した活動	松清ら（2009,2012）、※渡辺（2017）、※青柳（2017）
	j) 日常生活に関連した活動	谷口ら（2014）、高橋ら（2014）、鈴木ら（2008a,2008b,2008c）、松村（2008）※渡辺（2017）、※青柳（2017）、※高橋ら（2018）、※吉村ら（2016）、※佐藤（2016）、※角田（2015）、※木下（2013）、※Yongら（2018）、※赤塚ら（2016）、※中村ら（2018）、※岸田ら（2010）、※乾ら（2014）
物理的環境と地域への愛着の関連についての文献(8)	居住環境に対する認識	奥田ら（2016a,2016b）、巖（2012）、崔ら（2015）、長谷（2013）、酒井（2010）、引地ら（2009）、井出ら（2014）
地域への愛着の概念分析・尺度開発に関する文献(6)	概念分析(1) 尺度開発(5)	和ら（2014）、大森ら（2014）、酒井ら（2016）、櫻井ら（2018）、滝澤ら（2018）、本田ら（2010）
その他の文献(4)	家族の発達課題(2) 精神的健康(2) と地域への愛着に関する文献	藤田ら（2014）、播摩ら（2013）、大重（2016）、徳元ら（2018）

()内は文献数を示す、※は再掲あり

人文地理学の方野で行われてきており、最近では、“地域への愛着”の概念分析⁹⁾や尺度開発^{25,26)}が行われ、様々な地域活動と“地域への愛着”との関連が検討されていた。

2. “地域への愛着”に関連する地域活動
“地域への愛着”との関連を検討していた特定の地域活動には、小・中学生等の学習活動(10)、スポーツに関連した活動(15)、文化・芸術に関

「地域への愛着」に関連する地域活動の文献検討

表2. 「地域への愛着」に関連する地域活動の分類

地域活動による 類型 (文献数)	地域活動の種類	文献筆頭著者 (発行年)	文献数	地域活動の内容と地域への愛着との関連	期待される成果
自己充実 (実現) 型活動 (36)	a) 小・中学生等の学習活動	宮田 (2017), 永野 (2016), 山本 (2016), 相澤 (2017), 宮前 (2015), 猪熊 (2012), 大町 (2012), 加藤 (2010, 2009) ※ Yong (2018)	10	職業体験や、町体験の授業を通じ、児童の地域への肯定的な印象や地域の人々との交流が生まれていた。地域の自然環境やその多様性に触れる授業を通じて地域への関心が高まっていた。	地元への愛着を持つことにより、将来地元へ貢献する人材となる可能性がある。
	b) スポーツに関連した活動	菅 (2017, 2018), 林 (2015, 2016), 松本 (2015a, 2015b, 2015c), 先森 (2014), 一宮 (2010, 2011), 松本 (2014) ※ 渡辺 (2017), ※ 青柳 (2017), ※ 声原 (2014), ※ 中村 (2018)	15	地元のアマチュア、プロスポーツ観戦行動や地元でのコミュニティ活動 (パレーボール) により、地元チームへの愛着 (チームアイデンティティ) が高まり、地域への愛着の醸成にも関連していた。	地域に対する愛着は地域内で行われる他のコミュニティ活動への参加意欲にも影響を及ぼすため、地域コミュニティ活動への積極的参加を推進させるためのツールとなり得る。
	c) 文化・芸術に関連した活動	森 (2016), 小林 (2015), 本田 (2018), 河村 (2018) ※ 渡辺 (2017), ※ 青柳 (2017), ※ 高橋 (2018), ※ 角田 (2015), ※ 声原 (2014), ※ 中村 (2018)	10	アニメの舞台となった町に訪れたファン、サーンドレイスとしてのカフェ利用者や地域住民との交流が、地元以外の地域への愛着の形成に影響していた。	アニメファンを受け入れる側の条件として、住民の地域への愛着が重要。地元以外への協力意向が形成される。
	d) 観光に関連した活動	谷口 (2012)	1	観光客と地域住民との交流が、観光客の地域愛着に影響を与え、地域住民の地域愛着は、近隣住民との交流・地域活動への参加が多いほど高い。	観光客と地域住民との交流が生み出す地域への愛着が、持続可能な地域の発展につながる。「観光」の一助となる。
社会奉仕型活動 (17)	e) 自然や環境を守るための活動	梶早 (2016), 村上 (2012) ※ 渡辺 (2017), ※ 青柳 (2017)	4	ジオパーク活動によって、選好的な地域愛着が感情的な地域愛着を形成し、更にジオパークの多様性によって持続願望的地域愛着にまで醸成される。	多種多様なネットワークを構成し、これにより形成された多様な地域コミュニティが、地域アイデンティティを醸成する可能性が高い。
	f) 高齢者を対象とした活動	伏木 (2012), 梶田 (2009, 2010) ※ 渡辺 (2017), ※ 青柳 (2017), ※ 高橋 (2018), ※ 角田 (2015), ※ 声原 (2014), ※ 木下 (2013), ※ Yong (2018), ※ 赤塚 (2016), ※ 中村 (2018), ※ 乾 (2014)	13	高齢者のボランティア活動への参加意欲には、現居住地への愛着が関連しており、特に農村部では地縁的なつながりによる幅広いつきあいや信頼感、地域への愛着による相互依存関係が地域見守り活動の役に立っていた。	高齢者のボランティア活動への参加意欲の向上、地域での見守り活動の維持・発展に現居住地への愛着や相互依存関係が寄与する可能性がある。
	g) まちづくりのための活動	亀山 (2016), 奥田 (2016, 2018), 安藤 (2015), 市川 (2018), 尾関 (2009) ※ 渡辺 (2017), ※ 青柳 (2017), ※ 高橋 (2018), ※ 吉村 (2016), ※ 佐藤 (2016), ※ 角田 (2015), ※ 声原 (2014), ※ 木下 (2013), ※ Yong (2018), ※ 赤塚 (2016), ※ 岸田 (2010), ※ 乾 (2014)	18	小学生・中学生の地域活動への参加、近隣の人とかかわりやすさや交流は、地域への愛着の醸成に関係していた。	親を含む地域の大人が町内会等、地域に協力している認知を通じて、日常生活での留意を感じ、次は自分が恩を返そうという向社会的行動が期待される。
問題解決型活動 (26)	h) 健康や医療に関連した活動	中田 (2013), 埴淵 (2008) ※ 渡辺 (2017), ※ 青柳 (2017)	4	保健推進員の主体的な活動に、担当地区の健康課題への関心、地域への愛着、住民同士が声を掛け合える雰囲気や活動のしやすさが関連していた。	保健推進員をはじめとする地域組織は、地域のボランティア・キャピタル (地域への愛着を含む) を醸成する推進者として期待される。
	i) 災害に関連した活動	松濤 (2009, 2012) ※ 渡辺 (2017), ※ 青柳 (2017)	4	看護学生の防災意識には、地域行事への参加や居住地への愛着、家族や友人との会話など、身近なこととの強い関連が認められた。	今後、防災意識から防災行動に繋げるためには、居住地を視野に入れた災害看護教育の必要性が示唆された。
日常生活に関連した活動 (18)	j) 日常生活に関連した活動	谷口 (2014), 高橋 (2014), 鈴木 (2008a, 2008b, 2008c), 松村 (2008) ※ 渡辺 (2017), ※ 青柳 (2017), ※ 高橋 (2018), ※ 吉村 (2016), ※ 佐藤 (2016), ※ 角田 (2015), ※ 木下 (2013), ※ Yong (2018), ※ 赤塚 (2016), ※ 中村 (2018), ※ 岸田 (2010), ※ 乾 (2014)	18	日常的な買い物や移動途中の地域風土との接触が地域愛着 (選好) を高め、地域愛着 (選好) により地域愛着 (感情) ・(持続願望) が高まる。	地域愛着が高いほど、地域への活動に熱心で、行政を信頼する傾向がある。

※は再掲あり、() 文献数、再掲含む

連した活動(10)、観光に関連した活動(1)、自然や環境を守るための活動(4)、高齢者に関する活動(13)、まちづくりのための活動(18)、健康や医療に関する活動(4)、災害に関係した活動(4)、日常生活に関連した活動(18)が見られた(括弧内は、該当する文献数を示す)。これらの地域活動を倉沢(2002)の3つの地域活動の類型¹⁵⁾を参考に分類したところ、自己充実(実現)型活動36件、社会奉仕型活動17件、問題解決型活動26件がそれぞれ当てはまった。倉沢(2002)による3つの地域活動の他、日常生活に関連した活動18件が見られた。分類に際し、複数の地域活動について検討していた文献は、該当するすべての地域活動に再掲した(表1)。

各地域活動の内容と“地域への愛着”との関連性、期待される成果を、代表的な文献の例を用いて表2に整理した。自己充実(実現)型活動では、小・中学生等の学習活動^{36,37,42-48)}、スポーツに関連した活動⁴⁹⁻⁵⁹⁾、文化・芸術に関連した活動^{38-40,60)}、観光⁴¹⁾に関連した活動があり、対象とする年代は、子どもから成人まで幅広かった。文献数は小・中学生等の学習活動、スポーツに関連した活動での増加が見られた。社会奉仕型活動では、自然環境を守るための活動^{61,62)}、高齢者に関する活動^{6,7,34)}があり、ボランティア活動の参加要因としての“地域への愛着”や活動によって生じる交流、地域への誇りが“地域への愛着”をさらに高めることが示されていた。問題解決型活動では、まちづくりのための活動^{18,63-67)}、健康や医療に関する活動^{5,14)}、災害に関係した活動^{68,69)}があり、小学生、大学生から高齢者までの幅広い世代において、町内会活動をはじめとする地元の人々との交流の有無や頻度と“地域への愛着”との関連が検討されていた。同様に、防災活動への関心等、地域の課題と“地域への愛着”の関連が検討されていた。日常生活に関連した活動では⁷⁰⁻⁸⁵⁾、日常の挨拶や近所づき合い^{70,71)}の他、日常での移動⁷²⁾や買い物⁷³⁾などの日常生活行動も、地域との接触を介して“地域への愛着”に関連する機会となっていた。

考 察

1. “地域への愛着”に関連する地域活動の特徴

“地域への愛着”に関連する地域活動の中には、文化・芸術活動や観光などに関連した地域活動も含まれた。自己充実型活動に分類したこれらの活動は、個人の興味や趣味を持った人が集う性質があり¹⁵⁾、「保健推進員」、「母子保健推進員」、「食生活改善推進員」といった、地域の健康づくりを目的とした住民による地区組織活動^{86,87)}と比べると広義であった。

“地域への愛着”に関連する地域活動の主体は、年代が多岐にわたり、観光客など住民以外の人々も含まれていた³⁸⁻⁴¹⁾。学童期、思春期、成人期、高齢者といった様々なライフステージにある人々が主体となっていた。このことから、年代に応じた健康課題⁸⁸⁾を持つ人々、子育てや介護等の生活上の課題を持つ人々、疾病や障害を持つ人々といった多様な主体が混在し、“地域への愛着”に関連する地域活動を担っていることが分かった。また、観光客などが主体となっていたことから⁴¹⁾、その地域に居住する以外の人々もまた特定の“地域への愛着”に関連する地域活動を行い得ることが分かった。

“地域への愛着”に関連する地域活動は、活動の成果^{15,89)}が地域全体に還元されていた。地域活動の成果が直接個人に還元されるものもある一方で、それらの地域活動も、最終的に地域全体への成果を生んでいた。自己実現型活動に分類したスポーツに関連した活動や文化・芸術に関連した活動は、地元チームへの愛着⁵¹⁾やアニメにゆかりのある地域への愛着^{38,40)}が親密な交友関係の形成と生活満足の向上をもたらしていたため、個人に成果が還元されていたと考えた。くわえて、地元チームへの愛着が湧くことで、地域における他の活動への参加意欲も喚起されることがあった⁵¹⁾。また、サードプレイスとして訪れた地域への愛着が、居住地ではなくともその地域に何らかの協力をしたいと思うことにつながっていた³⁹⁾。社会奉仕型活動に分類した高齢者を対象とした活動や問

題解決型活動に分類したまちづくりのための活動は、ボランティア活動への参加意欲の向上と地域に根差した課題の解決、地域の安心・安全な環境の構築と維持を担う人材の育成につながっていた^{6,7)}。

“地域への愛着”に関連する地域活動における地域への関与は、活動によって程度が異なっていた。“地域への愛着”に関連する地域活動には、まちづくりのための活動や健康や医療に関する活動といった参加者自身に強い自主性と主体性を必要とする性質の活動^{15,89)}から、近隣での挨拶や近所づき合い^{70,71)}、買い物や移動途中の風土との接触^{72,73)}といった、個人の積極的な地域への関与を意識しない日常生活に関連した活動が含まれていた。

2. 「地域共生社会」の実現に向けた具体策への示唆

本研究では、“地域への愛着”に関連する地域活動の内容や期待される成果を明らかにした。以下では、「地域共生社会」の実現に貢献し得ると示唆された“地域への愛着”に関連する地域活動を述べる。

観光に関連した活動における、観光客と地域住民との交流が生み出す“地域への愛着”は、地域外から人々を呼び込み、人との交流や経済活動を生み出すことにより地域の活性化が期待できる⁴¹⁾。また、自然や環境を守るための活動では、地域の環境保全と資源の有効活用を目的とする多種多様なネットワークが、“地域への愛着”と関連して生じていた⁶¹⁾。「地域共生社会」の実現において、地域丸ごとのつながりの強化のために、社会参加の機会を提供し、経済活動の基盤を支えることが改革策として示されている¹⁾。上記の様な地域活動では、人々のつながり、社会参加の機会の提供、経済活動の基盤の支持などが“地域への愛着”をきっかけに起こり、また促進されていた。観光に関連した活動と自然や環境を守るための活動は、地域丸ごとのつながりの強化に資する可能性が示唆された。

小・中学生の学習活動では、小中学生が地域の大人と交流することによって地元への愛着を持ち、地元に貢献する人材に育つことが期待されていた³⁶⁾。また、スポーツに関連した活動は、地元

チームへの愛着等により人とのつながりや共通の価値観を生み出すとともに⁵¹⁾、チームが本拠地とする“地域への愛着”とも関連していた^{49,50,59)}。「地域共生社会」の実現に向けた地域課題の解決力の強化では、身近な日常生活圏における世代や背景を超えた交流、住民一人ひとりが生活における楽しみや生きがいを見出しその人らしい生活を送ることが示されている¹⁾。小・中学生の学習活動とスポーツに関連した活動では、“地域への愛着”が様々な世代や立場にある一人ひとりに関連することを通じて世代間交流や生きがい等が生まれ、地域課題の解決力の強化に繋がると考えられた。

結 論

国内の“地域への愛着”に関連する地域活動は、学童期から高齢期にわたる幅広い年代にあり、多様な健康課題や生活背景を持つ人々が主体となり行われていた。観光客などの当該地域の住民以外の人々も、“地域への愛着”に関連する地域活動の主体に含まれた。“地域への愛着”に関連する地域活動は、小・中学生等の学習活動をはじめ10種類に類型化することができた。これらの活動は、“地域への愛着”の構成概念や“地域への愛着”の形成効果と関連していることで、「地域共生社会」の実現に向けた地域丸ごとのつながりの強化と地域課題の解決力の強化に資すると考えられた。

文 献

- 1) 厚生労働省：「地域共生社会」の実現に向けて、
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000184346.html>
- 2) 厚生労働省：地域包括ケアシステムの実現へ向け、
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/huku-shi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/
- 3) 高橋香子，末永カツ子，栗本鮎美，他：住民の主体的な健康づくり活動の推進要件に関する検討，東北医大保健学科紀要，19(2)，73-80，2010
- 4) 鈴木春菜，藤井聡：地域愛着が地域への協力的行動に及ぼす影響に関する研究，土木計画学研究・論文集，25(2)，357-262，2008
- 5) 中田拓也，小川玲実，杉田友理，他：A市における保健推進員の主体的な活動と充実感に関連する要因，北海道公衆衛生学雑誌，26(2)，67-73，2013

- 6) 榊田聖子, 金谷志子, 大井美紀, 他: 都市部と農村部における高齢者の地域見守りネットワーク活動の実態, 甲南女子大学研究紀要(看護学・リハビリテーション学編), **3**, 33-44, 2009
- 7) 伏木康弘, 大西浩文, 大浦麻絵, 他: 地域ボランティア参加意志を持つ高齢者の特性 石狩, 空知振興局管内4市3町に在住者への調査, 北海道公衆衛生学雑誌, **25**(2), 139-146, 2012
- 8) 酒井太一, 大森純子, 高橋和子, 他: 向老期世代における“地域への愛着”測定尺度の開発, 日本公衆衛生雑誌, **63**(11), 664-674, 2016
- 9) 大森純子, 三森寧子, 小林真朝, 他: 公衆衛生看護のための“地域への愛着”の概念分析, 日本公衆衛生看護学会誌, **3**(1), 40-48, 2014
- 10) 高橋準郎: コミュニティ・センシメントに関する一考察—地域への愛着意識を中心に, 淑徳大学研究紀要, **16**, 45-63, 1982
- 11) 高橋準郎: 居住地域への愛着意識について, 淑徳大学研究紀要, **18**, 51-64, 1984-03
- 12) 近藤克則: 健康各社社会—何が心と健康を蝕むのか, 医学書院, 東京, 2005
- 13) 近藤克則, 編: 検証「健康格差社会」介護予防に向けた社会疫学的大規模調査, 医学書院, 東京, 2007
- 14) 埴淵知哉, 村田陽平, 市田行信, 他: 保健師によるソーシャル・キャピタルの地区評価, 日本公衆衛生雑誌, **55**(10), 716-723, 2008
- 15) 倉沢進: コミュニティ論, 第1刷, 放送大学教育振興会, 東京, 2002, 48-51
- 16) 研究分野一覧表: 研究者人材データベース JREC-IN Portal, <https://jrecin.jst.go.jp/offer/OrgDescription?id=005>
- 17) 奥田雄一郎, 阿部廣二, 三井里恵: 大学生の地域愛着と時間的展望, 共愛学園前橋国際大学論集, **16**, 157-164, 2016
- 18) 奥田雄一郎, 呉宣児, 大森昭生: 群馬県前橋市における地域認識と地域への愛着(1), 共愛学園前橋国際大学論集, **16**, 145-156, 2016
- 19) 巖爽: 認知地図を通してみた地域への認知と愛着に関する考察, 宮城学院女子大学生生活環境科学研究所研究報告, **44**, 1-11, 2012
- 20) 崔熙元, 大原一興, 藤岡泰寛: 地域資源としての高齢者居住施設に対する意識構造と立地環境との関連性に関する研究(その1) 施設に対する意識と地域愛着の関係に着目して, 日本建築学会計画系論文集, **80**(711), 1037-1045, 2015
- 21) 長谷起世子: 地域への定住と愛着心からみるまちづくりに関する研究—A市C地区における住民の意識分析—, 関西福祉大学社会福祉学部研究紀要, **17**(1), 51-60, 2013
- 22) 酒井聡一: ふじみ野市における地域への愛着を構成する要素についての調査と分析, 文京学院大学人間学部研究紀要, **12**, 1-9, 2010
- 23) 引地博之, 青木俊明, 大淵憲一: 地域に対する愛着の形成機構—物理的環境と社会的環境の影響—, 土木学会論文集, **D65**(2), 101-110, 2009
- 24) 井出政芳, 山本玲子, 宇野智江, 他: 中山間地域に住まう高齢者のトポフィリア=場所愛についての分析, 日本農村医学会誌, **62**(5), 726-744, 2014
- 25) 和秀俊, 三田泰雅, 遠藤伸太郎: 地域愛着感尺度の開発 高年男性の地域活動参加要因を解明するために, 地域福祉研究, **42**, 102-109, 2014
- 26) 櫻井尚子, 滝澤寛子, 渡部月子, 他: 『地域への愛着』を測定する尺度の開発 都市郊外のグループ活動に参加している高齢者における検討, 社会医学研究, **35**(1), 83-97, 2018
- 27) 滝澤寛子, 櫻井尚子: 旧農村地域に住む向老期から前期高齢者の地域への愛着を測定する尺度の開発, 社会医学研究, **35**(1), 55-62, 2018
- 28) 本田光, 宇座美代子: コミュニティーにおける人々の他者への信頼を測定するための尺度開発と理論的検証, 日本地域看護学会誌, **13**(1), 7-43, 2010
- 29) 藤田幸司, 金子善博, 本橋豊: 地域住民における認知的ソーシャル・キャピタルとメンタルヘルスとの関連, 厚生への指標, **61**(3), 1-7, 2014
- 30) 播摩優子, 佐々木久長: 地域住民のソーシャル・キャピタルと精神的健康との関連, 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要, **21**(2), 97-111, 2013
- 31) 大重育美: 離島における1歳6ヵ月健診児をもつ保護者とその祖父母の育児不安に関する実態調査, 小児保健研究, **75**(5), 594-601, 2016
- 32) 徳元裕子, 豊里竹彦, 眞築城千夏子, 他: 沖縄県の地域住民の経済状況と地域愛着が親扶養意識に及ぼす影響について, 日本健康学会誌, **84**(1), 3-11, 2018
- 33) 佐藤裕見子: 地域住民の主観的健康感及び生活満足度と健康関連因子の関連 農山村地域と新興住宅地域の比較検討, 日本健康医学会雑誌, **25**(2), 98-106, 2016
- 34) 榊田聖子, 金谷志子, 津村智恵子, 他: 高齢者の地域見守りネットワークとソーシャル・キャピタル, 高齢者虐待防止研究, **6**(1), 130-139, 2010
- 35) 芦原ひとみ, 鄭丕媛, 近藤克則: 自殺率と高齢者におけるソーシャル・キャピタル関連指標との関連 JAGES データを用いた地域相関分析, 自殺予防と

“地域への愛着”に関連する地域活動の文献検討

- 危機介入, **34**(1), 31-40, 2014
- 36) 宮田延実: 地域愛着を育むキャリア教育による地元志向への効果, 進路指導, **90**(1), 23-31, 2017
- 37) 永野昌博, 北里秋穂: 地域愛着の醸成を目指した環境教育プログラムの開発と実践—生物多様性への気づきと感動体験を通じて—, 大分大学教育学部研究紀要, **38**(1), 59-74, 2016
- 38) 森裕亮: アニメツーリズムと地域社会の態度 「コミュニティへの愛着」という文化条件の作用, 比較文化研究, **124**, 241-252, 2016
- 39) 小林重人, 山田広明: サードプレイスにおける経験がもたらす地域愛着と協力意向の形成, 地域活性研究, **6**, 1-10, 2015
- 40) 本田真裕子: アニメ聖地巡礼を通じた旅行者の地域愛着 岩手県九戸郡軽米町を事例として, お茶の水地理, **57**, 30-39, 2018
- 41) 谷口綾子, 他: 観光地における多様な主体の地域愛着の規定因に関する研究—ニセコ・倶知安地域を事例として, 土木学会論文集 D3 (土木計画学), **68**(5), 551-562, 2012
- 42) 山本銀兵, 加納誠司: 「地域への愛着」形成過程に関する一考察—「町探検」の実践分析を通して—, 教職キャリアセンター紀要, **1**, 17-25, 2016
- 43) 相澤亮太郎: 地域への愛着を育てる小学校社会科の地域学習指導のために, 甲南女子大学研究紀要第53号 人間科学編, **53**, 9-15, 2017
- 44) 宮前耕史: 地域に対する愛着および協働意識を養い育む特別活動—島根県立隠岐島前高等学校の人間体験「ヒトツナギ」—, ESD・環境教育研究, **17**(1), 43-54, 2015
- 45) 猪熊泰堂: 地域への愛着を育む総合的な学習に関する研究—問題解決学習に基づいた分析を通して—, 生活科・総合的学習研究, **10**, 31-38, 2012
- 46) 太町智: 地域への親しみや愛着を育む生活科の授業の在り方についての研究—米国サービス・ラーニングの実践の分析を通して—, 浜松学院大学短期大学部研究論集, **8**, 1-12, 2012
- 47) 加藤亜美: 「地域への愛着」の基盤を築く生活科学習—都市部における第2学年「秋の町探検」の授業実践を通して—, 生活科・総合的学習研究 (愛知教育大学), **8**, 87-96, 2010
- 48) 加藤亜美: 生活科における「地域への愛着」の基盤を築くための一考察—主に名古屋市での実態調査を通して—, 生活科・総合的学習研究 (愛知教育大学), **7**, 123-132, 2009
- 49) 菅文彦, 古川拓也, 舟橋弘晃, 他: スポーツ観戦意図及び行動と地域愛着の関係分析 FC 今治を事例として, スポーツ産業学研究, **27**(3), 3_223-3_232, 2017
- 50) 菅文彦, 古川拓也, 舟橋弘晃, 他: チーム・アイデンティフィケーションと地域愛着の因果関係に関する考察 FC 今治の本拠地 (愛媛県今治市) の住民を対象として, スポーツ産業学研究, **28**(1), 1-11, 2018
- 51) 林直也: スポーツチームへの愛着が地域愛着や地域コミュニティ活動への参加意欲に及ぼす影響に関する研究, Human Welfare, **7**(1), 59-70, 2015
- 52) 林直也: スポーツチームへのアイデンティティと地域愛着との関係に関する研究—アマチュアスポーツの試合観戦者に着目して—, Human Welfare, **8**(1), 47-59, 2016
- 53) 松本耕二, 渡辺泰弘: 市民型スポーツボランティアの地域愛着とチームイメージとの関連, 広島経済大学研究論集, **38**(2), 13-20, 2015
- 54) 松本耕二, 渡辺泰弘: 地元プロ・スポーツチームのチームイメージ, チーム同一性と地域愛着, 広島経済大学研究論集, **38**(3), 13-21, 2015
- 55) 松本耕二, 山本公平: 離島トライアスロン大会開催による地域活性化の波及効果に関する研究—運営手法の違いが地域愛着に及ぼす影響—, 笹川スポーツ研究助成研究成果報告書, 118-126, 2015
- 56) 先森仁, 秋吉遼子, 山口泰雄: 大会満足度と地域愛着が市民マラソンの再参加意図に与える影響に関する研究—県内・県外参加者に着目して—, 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, **8**(1), 107-113, 2014
- 57) 松本涼, 山口泰雄: サッカー参加が地域愛着に及ぼす影響に関する研究—するスポーツとみるスポーツに着目して—, 体育・スポーツ科学, **23**, 45-52, 2014
- 58) 二宮浩彰: プロスポーツチーム観戦者行動におけるチームに対する愛着とホームタウンへの地域愛着, 同志社スポーツ健康科学, **3**, 14-21, 2011
- 59) 二宮浩彰: プロスポーツ・ファンの地域愛着とスポーツ観戦者行動, スポーツ産業学研究, **20**(1), 97-107, 2010
- 60) 河村俊太郎, 山田翔平: 日本の公立図書館の特性と地域への愛着や読書冊数との関係について, 愛知淑徳大学論集, 人間情報学部篇, **8**, 9-18, 2018
- 61) 船見高根: ジオパーク活動がもたらす地域愛着に関する研究—持続可能な地域社会の創造に向けて—, 21世紀社会デザイン研究 (立教大学), **15**, 149-161, 2016
- 62) 村上一真: 森林環境税の必要性判断に係る意思決定プロセスの分析—地域への愛着と地域との関わりに係る分析—, 環境経済・政策研究, **5**(1), 34-45,

- 2012
- 63) 亀山清美：地域活動や挨拶と地域への愛着に関する考察—中学生の意識調査を事例として—, 地域活性化研究, **7**, 90-98, 2016
- 64) 奥田雄一郎, 呉宣児, 大森昭生：群馬県前橋市における地域認識と地域への愛着 (2) 大学生定量データの分析, 共愛学園前橋国際大学論集, **18**, 249-259, 2018
- 65) 安藤かほり, 丹治三則, 行木美弥, 他：地域の清掃活動に着目した環境共生行動と地域愛着の相互関係性に関する研究, 環境システム研究論文発表会講演集, **43**, 317-323, 2015
- 66) 市川直子, 山田夢香, 米島慶, 他：子どものソーシャル・キャピタルとそれに関連する要因 T町の事例から, 保健学研究, **31**, 33-39, 2018
- 67) 尾関美喜, 吉澤寛之, 中島誠, 他：地域住民との社会的交流が子どもの向社会的行動に及ぼす影響 地域からの恩恵と地域への愛着による媒介モデル, 名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 (心理発達科学), **56**, 1-9, 2009
- 68) 松清由美子, 野村志保子, 森本紀巳子：看護学生の防災意識とその影響要因, 日本災害看護学会誌, **10**(3), 36-49, 2009
- 69) 松清由美子：災害特性の異なる地域で生活する看護学生の防災意識および防災行動の相違, 日本医学看護学教育学会誌, **21**, 39-44, 2012
- 70) 高橋和子, 大森純子, 田口敦子, 他：首都圏近郊都市部の向老期世代の“地域への愛着”に関連する要因, 日本公衆衛生看護学会誌, **7**(2), 80-90, 2018
- 71) 吉村 隆, 北山秋雄：中山間地域におけるソーシャル・キャピタルの把握 量的調査方法の検討, 信州公衆衛生雑誌, **11**(1), 13-23, 2016
- 72) 鈴木春菜, 藤井聡：「地域風土」への移動途上接触が「地域愛着」に及ぼす影響, 土木学会論文集, **D64**(2), 179-189, 2008
- 73) 鈴木春菜, 藤井聡：「消費行動」が「地域愛着」に及ぼす影響に関する研究, 土木学会論文集, **D 64**(2), 190-200, 2008
- 74) 高橋尚也, 川上善郎, 川浦康至：商店街に対する態度と購買意識による類型別にみた地域愛着, 立正大学心理学研究所紀要, **12**, 77-86, 2014
- 75) 松村暢彦：モビリティ・マネジメントによる交通行動変容と地域愛着の関係性, 環境情報科学論文集, **22**, 127-132, 2008
- 76) 渡辺由希：地域への愛着によって促される地域活動の参加傾向, 淑徳大学大学院総合福祉研究科研究紀要, **24**, 111-129, 2017
- 77) 青柳涼子：地域愛着および地域とのつながりを規定する要因の探索的分析, 淑徳大学大学院総合福祉研究科研究紀要, **24**, 25-42, 2017
- 78) 赤塚永貴, 有本梓, 田高悦子, 他：都市部地域在住高齢者の主観的健康感に関連する要因の性差に関する比較, 日本地域看護学会誌, **19**(2), 12-21, 2016
- 79) 角田英恵：新興住宅地の開発がすすむ地域における高齢者の心の健康に関連する要因, 日本農村医学会雑誌, **64**(2), 140-154, 2015
- 80) 木下香織：島嶼部に生活する高齢者のソーシャル・キャピタルと居住期間との関係, インターナショナル Nursing Care Research, **12**(2), 65-72, 2013
- 81) Yong Kim Fong Roseline, 豊島優人, 藤田幸司, 他：ひきこもりと生活習慣, 心理社会的要因およびソーシャル・キャピタルとの関連, 秋田県公衆衛生学雑誌, **14**(1), 22-28, 2018
- 82) 中村廣隆, 尾島俊之, 中川雅貴, 他：地域在住高齢者が転出に至る要因の研究 望まない転出を予防するために, 厚生学の指標, **65**(5), 21-26, 2018
- 83) 岸田秀樹, 足利学：都市勤労者型自殺予防のための地域的資源の検索に向けて 医療系大学生の首尾一貫感覚 (SOC) と地域的連帯との関係についてのプレテストに基づいて, 藍野学院紀要, **23**, 27-33, 2010
- 84) 乾順紀, 他：都市部高齢化地域居住者の地域愛着に関連する要因について—尺度と構成因子別の分析より—, 神戸大学大学院人間発達環境学研究科研究紀要, **8**(1), 1-10, 2014
- 85) 谷口綾子, 宮川雄貴, 石田東生：地域の物語が自治体職員の地域愛着に与える影響の検証—かしてつバス導入時の事例—, 土木学会論文集 H (教育), **70**(1), 54-64, 2014
- 86) 今村晴彦, 村上義孝, 岡村智教, 他：地区組織活動経験が国民健康保険医療費に及ぼす影響 長野県須坂市の保健補導員活動に着目して, 日本公衆衛生雑誌, **64**(1), 25-35, 2017
- 87) 山田小織, 重松由佳子, 伊藤直子：地区組織のエンパワメントを目指した行政保健師活動に関する一考察 A 地区健康づくり活動メンバーのモラルに着目して, 西南女学院大学紀要, **11**, 23-32, 2007
- 88) 佐伯和子：公衆衛生看護学テキスト第2巻 公衆衛生看護技術, 医歯薬出版株式会社, 東京, 2014, 56-57
- 89) 松村暢彦：郊外住宅地における地域活動が地域への態度と生活満足度に与える影響—兵庫県川西市大和地区を事例として—, 日本都市計画学会 都市計画論文集, **47**(3), 373-378, 2012